■1 年、職業別ガイダンスの成果と課題

直接講師から話を聞くことで興味・関心や将来の職業生活への展望や意欲が高まったことが生徒の感想から確認できた。また、生徒自身が講演内容に触発されている様子、職業や自身の将来について思いをめぐらせている様子が伝わってきた。今後は、その思考の過程を成果として発表する機会を設けることが必要である。クラス単位、学年単位のプレゼンテーションのほか、進路委員によるポスターセッションを文化祭等の機会を利用して試みたい。

また、講師による一方通行的な講演に終わらせることなく、質疑応答を活発化させることによって、双方向性を持たせる工夫も検討したい。実際、質疑応答をふんだんに取り入れた講座もあったし、講座終了後に講師と生徒の間で座談が続いた事例もあった。複数講師や生徒参加による座談会形式を取り入れることも一案である。

本校では、2 年次の夏期休業中に、オープンキャンパスもしくはインターンシップに参加してレポートを作成することになっている。現状では、オープンキャンパスに参加する生徒が大半で、インターンシップ希望者は1 割に満たない程度である。リーディング事業のコンセプトでもある「地域社会人」育成のためにも、地元の企業や行政に関心を向けさせる必要がある。このため、保護者や同窓生の協力を仰ぎつつ、インターンシップを充実させたい。